

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 松ヶ江北 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回ったが、無答率が0%とあきらめずに問題に取り組む姿勢が見られた。 ・「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域に課題が見られる。 ・特に、自分の考えやその理由を明確に話したり、文章の構成を考えながら必要なことを読み取ったりすることに課題が見られる。
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の下書きを、人の話を参考にして、詳しく書き直す「記述式」の問題
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチで話す内容として、必要なものを選択する問題 ・必要な情報を集めて要約して記述する問題
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回ったが、無答率が0%に近く、積極的に問題を解く姿勢が見られた。 ・「変化と関係」(伴って変わる2つの量の変化を考える)の領域に課題が見られる。 ・自分の考えを順序立てて説明したり、式や図などで表現したりすることに課題が見られる。 ・データの特徴や傾向を捉え、必要な情報を使って自分の考えを表現することに課題が見られる。
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・条件に合う時刻を求める(午後1時35分から50分後の時刻を書く)問題
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題 ・帯グラフで表された複数のデータを比較し、データの特徴を分析し、その結果を表現する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「平日1日当たりどのくらいテレビゲームをしますか」の質問に対し、全体の約7割が1時間以内である。また、家庭でのスマートフォンや携帯などの使い方について、7割以上の児童が約束をしたことを守っていると回答。情報モラル等についての教育活動は今後も保護者と連携して充実を図る。 ・「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問に対して肯定的な回答は5割ぐらいだった。自尊心を高め、何事にも自信をもって行動できる児童を育てたい。 ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問に対し、肯定的な今年度(6年生)は9割と増え、学習意欲を高めている児童がほとんどである。将来への夢や目標の高まりが考えられる。 ・読書の時間が全国平均よりかなり上回っており、読書に対する関心が高い。校内での読書活動推進の取組を引き続き行っていく。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」の質問に対して半数の児童が「当てはまる」と回答した。日ごろの学習や学校行事等で、話し合い活動が活発に進められた成果である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学習活動や学習時間以外の時間(朝の会や帰りの会)などを活用して、各学年、発達段階に応じた自分の考えや思いを話す時間を作る。(朝の1分間スピーチなど)また、「発表の仕方」を掲示し、常に話し方を意識できるように指導する。 ・特別活動や学校行事、委員会活動など様々な場面において、一人ひとりの児童が活躍する場を設定し、達成感や充実感を味わわせることで自尊心を高める。 ・朝の裁量の時間「松北タイム」(15分間)では、曜日で教科を決め、基礎学力の定着を図ることができる課題に取り組ませる。 ・学習の振り返りをしっかり行い、児童が自分の言葉で感想や考えを話したり書いたりすることで、学習内容の理解を深めることができるようにする。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習では、「松北家庭学習3点セット」①漢字②計算③音読を毎日、実施する。また、学校では手本となる児童の自主学習ノートを校内に掲示し、児童の学習意欲を高めることができるようにする。 ・読書の時間の充実を定着させるため、読書カードなどを使って読書の足跡を残していく。また、読んだ本の簡単な感想文を書くなど日頃から表現力の向上を図る。 ・栄養教諭による食育だより「たべもの通信」の配布では、給食を通して児童の食べ物への関心や興味を高めたり、家庭でも活用できる内容をお知らせしたりする。また、養護教諭による「ほけんだより」の配布では、季節に応じた病気の予防や日頃の児童の様子から気になることなど、家庭でも気を付けてほしいことや協力して欲しいことなどを発信する。
